

逸見舩齋

ひんみ

漢詩人。文政八年八月一日越中國礪波郡高岡生れ、

明治八年八月二十一日歿（八二五―七五）。諱在綱、字有秋、幼名直太郎、

通稱文九郎、又一。別號方舟。家は代々高岡の町役人を務める。家業

の傍ら學を好みで詩を能くす。屢々京に遊んで梁川星巖、篠崎小竹、

頼嶋隼、藤井竹外等と詩酒を以て往來。豫て勤王説を有し、志士と接

して國事を奔走、資金等にも助勢した。取分け關はり深かつた小川靖

齋斬首事件に連坐して金澤で下獄。維新後、縣役人から越後府の仕官、

のち驛遞局權判事等を務めた。

『逸見舩齋』（大正十二年十一月二十日北海道・逸見文綱編輯）があ

る。